

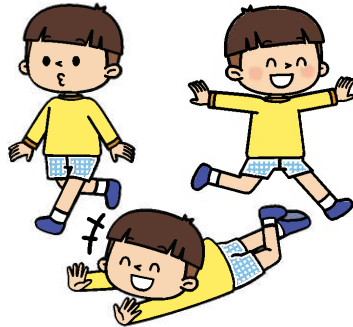
発達障がいを理解するために

まわりから「わかりにくい」発達障がい

なぜ、一方的に話すのだろう？



みんな静かに待っているのに、なぜ、動きまわるのだろう？



スラスラ計算ができるのに、なぜ、話すのが苦手なのだろう？



気持ちのすれ違いや思い違いで

「どうして…?」「なんで…?」と戸惑っていませんか？

これは、発達障がいのある人の障がいが、見た目からわかりにくいことにあります。

このような場面にも出会ったことはありませんか？

子どものころ…

片付け・整理
ができない



落ち着きがない



仕事のミスが多く
長続きしない



家事や育児が
うまくこなせない



パートナーや
子どもの気持ち
が理解できない



このような行動についても、

発達障がいが原因になっていることがあります。

発達障がいてどんな障がい？

発達障がいは、自閉症（自閉症スペクトラム）、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障がい、学習障がい（LD）、注意欠陥多動性障がい（ADHD）など、いくつかのタイプに分類されています。発達障がいは、生まれつきの特性で、「病気」とは異なるとされています。発達障がいのある人は、対人関係やコミュニケーションが苦手なため、周囲の理解と支援が必要です。

…それぞれの障がいの特性…

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障がい
- 対人関係・社会性の障がい
- パターン化した行動、こだわり

知的な遅れを伴うこともあります

自閉症

広汎性発達障がい

アスペルガー症候群

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障がい
- 対人関係・社会性の障がい
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用（言語発達に比べて）

注意欠陥多動性障がい ADHD

- 不注意（集中できない）
- 多動・多弁（じっとしてられない）
- 衝動的に行動する（考えるよりも先に動く）

学習障がい LD

- 「読む」、「書く」、「計算する」などの能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

参考資料：厚生労働省
「発達障害の理解のために」

発達障がいのある人に、
どのような支援をしたらよいのだろう？

発達障がいのある人への支援

「不安にさせない、怖がらせない、混乱させない」ことが基本ですが、一人ひとりの発達の状態や特性、生活状況を考えて支援します。大事なことは、その人がどんなことができ、何が苦手なのか、どんな魅力があるのかといった「その人」に目を向けることです。そして、その人にあった支援があれば、だれもが自分らしく、共に生きることができます。

自閉症の人への支援

抽象的な言葉での理解が難しい人に対して

● 具体的な言葉で伝える。



状況を察することや相手の気持ちを理解することが難しい人に対して

● あらかじめ具体的に伝える。



アスペルガー症候群への支援

言葉通りに解釈する人に対して

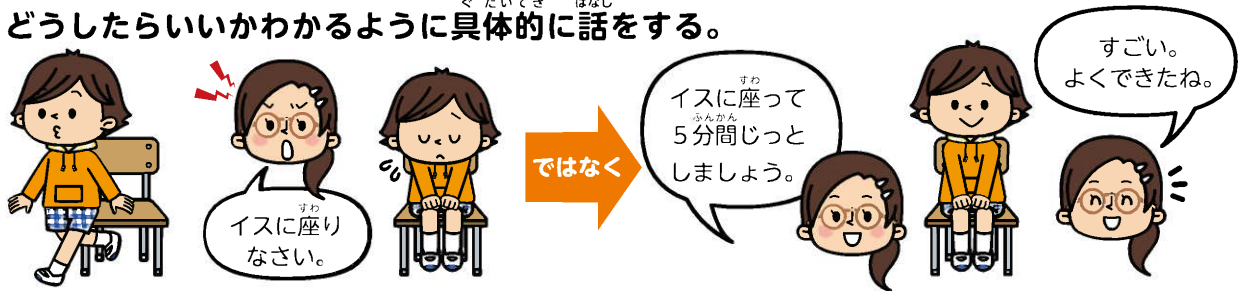
● これからの予定や起こることをできるだけ予告する。



注意欠陥多動性障がい(ADHD)への支援

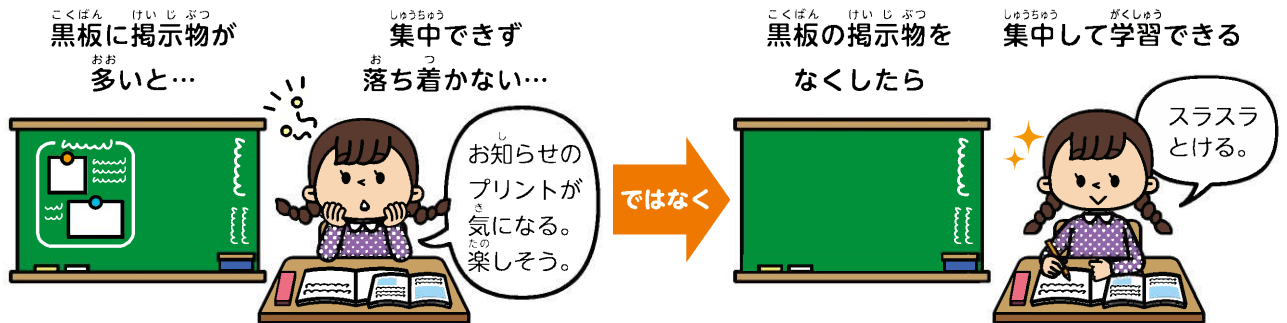
多動性の特徴がある人に対して

- どうしたらいいかわかるように具体的に話を^{くたいてき}する。



不注意の特徴がある人に対して

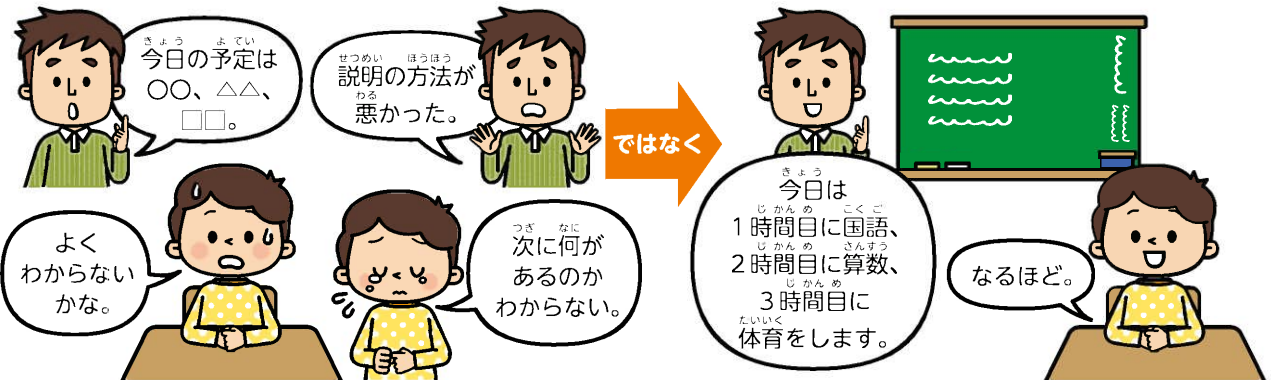
- 注意を散らす刺激の少ない^{かんきょうづく}環境作りをする。



学習障がい(LD)への支援

「聞く」力に困難さを持つ人に対して

- 音声だけでなく、動作や絵・文字などの視覚情報を同時に出す。



「話す」力に困難さを持つ人に対して

- 話したいという意欲をなくさせないようにする。

